

入学年度	学部	学科	組	番号	検	フリガナ
	B	1				氏名

$a$  は正の定数で  $a \neq 1$  とするとき、 $a$  を底とする  $x$  の指数関数

$$f(x) = a^x$$

の導関数を求めたい。いま、 $x$  が  $x + h$  まで変化したときの  $f(x) = a^x$  の平均変化率を指數法則を用いて変形すると

$$\frac{f(x+h) - f(x)}{h} = \frac{a^{x+h} - a^x}{h} = \frac{a^x a^h - a^x}{h} = \frac{a^x(a^h - 1)}{h} = a^x \cdot \frac{a^h - 1}{h}$$

を得る。したがって導関数  $f'(x)$  は

$$(1) \quad f'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h} = a^x \cdot \lim_{h \rightarrow 0} \frac{a^h - 1}{h}$$

と計算できる。ここで  $\lim_{h \rightarrow 0} \frac{a^h - 1}{h} = m_a$  とおくと、

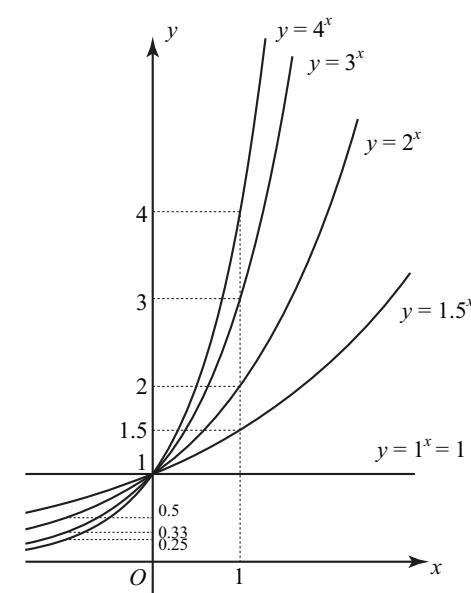
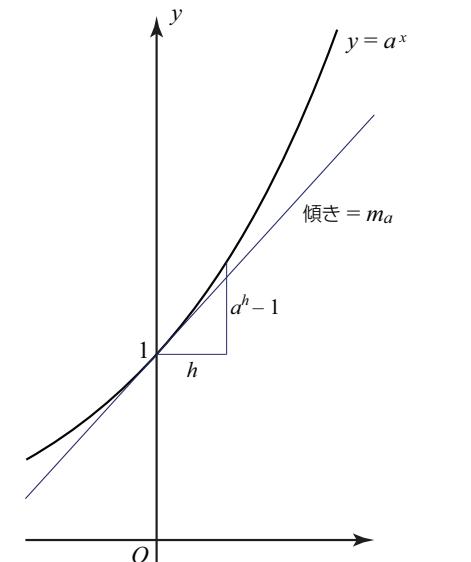
$$(2) \quad f'(x) = a^x \cdot m_a$$

となり、 $m_a$  さえわかれれば  $f'(x)$  がわかる。いま、

$$(3) \quad f'(0) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{a^{0+h} - a^0}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{a^h - 1}{h}$$

であることに注意すると、 $m_a$  は曲線  $y = a^x$  上の点  $(0, 1)$  における接線の傾きにほかならない。すなわち、 $f'(x)$  を計算するためには、 $x = 0$  における接線の傾き  $m_a$  さえ計算すればよいことがわかる。

そこで、(3) の極限値  $m_a$  がどのような値になるかを考えてみる。右の図を見ると、曲線  $y = a^x$  の上の点  $(0, 1)$  における接線の傾き  $m_a$  は、 $a$  が大きくなるほど大きくなることがわかる。そこでまず実験として  $a = 2$  と  $a = 3$  のときに、 $h$  のいろいろな値に対して  $\frac{a^h - 1}{h}$  の値を数値計算をしてみよう。スマートフォンの関数電卓アプリなどを用いて、右のページの表を作つてみる。大抵のスマートフォンの関数電卓アプリでは有効数字 16 桁の計算ができるので、できる限りくわしく計算してみてほしい。そして、その結果として、 $h \rightarrow 0$  としたとき、 $\frac{2^h - 1}{h}$  と  $\frac{3^h - 1}{h}$  がそれぞれどのような値に近づくか見当をつけてみよう。



例えば  $\frac{2^{0.01} - 1}{0.01}$  を計算するには、シンプルな関数電卓（例えば iPhone の電卓アプリの旧バージョン）では次の順序で入力すればよい。

2 [x<sup>y</sup>] . 0 1 [=] − 1 [=] ÷ . 0 1 [=]

$h$	$\frac{2^h - 1}{h}$	$\frac{3^h - 1}{h}$
0.1	0.717734625362932...	1.161231740339044...
0.01	0.695555005671881...	1.104669193785359...
0.001		
$10^{-4}$		
$10^{-5}$		
$10^{-6}$		
$10^{-7}$		
$10^{-8}$		
$10^{-9}$		
$10^{-10}$		
↓	↓	↓
$\lim_{h \rightarrow 0}$		

この表より  $\frac{2^h - 1}{h}$ ,  $\frac{3^h - 1}{h}$  はそれぞれある 0 でない一定値に近づく様子が見て取れ、その値は次のように推測できる。

$$m_2 = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{2^h - 1}{h} = \boxed{\phantom{000}}, \quad m_3 = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{3^h - 1}{h} = \boxed{\phantom{000}}$$

前ページの結果を見ると  $m_2 < 1$ かつ $m_3 > 1$ であることがわかる。したがって、2と3の間に  $m_a = 1$ となるような  $a$  の値があるだろうと考えられる。実は、 $m_a = 1$ となるような  $a$  の値は単純な有理数ではないこと知られているので、そのような数を  $e$  という文字で表し、Nepier の数とか自然対数の底と呼ぶ。すなわち、数  $e$  は次の式をみたすような数である。

$$(4) \quad \lim_{h \rightarrow 0} \frac{e^h - 1}{h} = 1$$

すると(1)と(4)から、 $f(x) = e^x$  ならば  $f'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} e^x \cdot \frac{e^h - 1}{h} = e^x \cdot 1 = e^x$  が得られる。

### 指数関数の $e^x$ の導関数

$$(e^x)' = e^x$$

**1** 指数関数と対数関数の互いには  $e^{\log a} = a$  という関係が成り立つ。これより、 $a^x = (e^{\log a})^x = e^{x \log a}$  である。そこで、 $y = e^u$ 、 $u = (\log a)x$  において、合成関数の微分公式を用いて、指数関数  $a^x$  の導関数  $(a^x)'$  をもとめよ。[ヒント： $\log a$  は定数であることに注意。]

**2**  $f(x) = e^x$  とすると、自然対数関数  $\log x$  はその逆関数である、すなわち  $f^{-1}(x) = \log x$  である。そこで、 $f'(x) = e^x$  であることと、逆関数の微分公式を用い、 $f^{-1}(x) = \log x$  の導関数が  $\frac{1}{x}$  であることを、すなわち  $(\log x)' = \frac{1}{x}$  であることを示せ。

**3** 前問によれば、 $f(x) = \log x$  としたとき、 $f'(1) = \frac{1}{1} = 1$ となることがわかる。一方、

$$f'(1) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\log(1+h) - \log 1}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \left( \frac{1}{h} \log(1+h) \right) = \lim_{h \rightarrow 0} \left( \log(1+h)^{\frac{1}{h}} \right) = \log \left( \lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}} \right)$$

である。（最後の等号は  $\log$  が連続関数なので  $\log$  と  $\lim_{h \rightarrow 0}$  の順序が入れ替えられることによる。）よって、

$$f'(1) = \log \left( \lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}} \right) = 1$$

となり、 $\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}}$  は  $\log$  をとると 1 になるような値、すなわち、

$$\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}} = e$$

となる。そこで、次の表を用い  $(1+h)^{\frac{1}{h}}$  の値を計算してみよう。 $h = 1, 0.1, 0.01, 0.001, \dots, 10^{-9}$  として関数電卓を用いて  $(1+h)^{\frac{1}{h}}$  を計算し、表の空欄を埋め、極限値  $\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}}$  の値を推測せよ。

$h$	$(1+h)^{\frac{1}{h}}$
0.1	2.5937424601
0.01	2.70481382941526...
0.001	.
$10^{-4}$	.
$10^{-5}$	.
$10^{-6}$	.
$10^{-7}$	.
$10^{-8}$	.
$10^{-9}$	.
$\downarrow$	$\downarrow$
$\lim_{h \rightarrow 0}$	.

これより、 $e =$   と推測される。